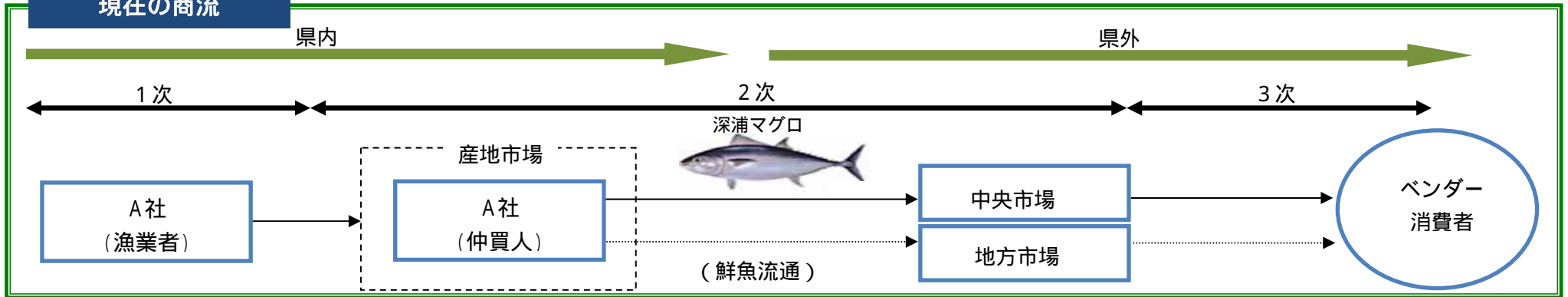
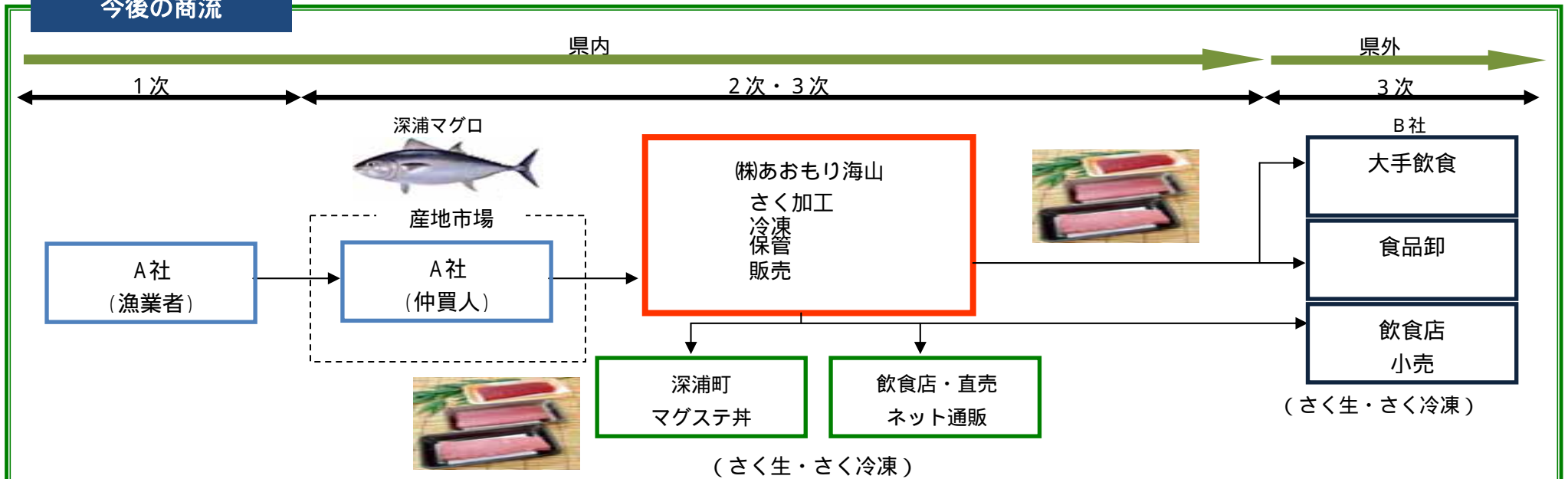


銀行名	みちのく銀行
タイトル	「深浦マグロ」ブランド化への取組み
取組み内容	<p><b>【動機（経緯）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A社は、青森県深浦町で漁業と産地市場の仲買人を営んでおり、自社で漁獲したクロマグロを鮮魚のまま中央市場へ出荷していた（同社のクロマグロ漁獲高は深浦町全体の半数を占める）。</li> <li>・ 深浦町のクロマグロ漁獲量は「大間マグロ」で有名な青森県大間町の約2.6倍と県内1を誇る反面、価格では「大間マグロ」の半額以下となっていた。</li> <li>・ 価格差が生じる原因として、深浦マグロの漁期は5月～8月で、鮮魚のままでは需要期である12月～1月に出荷できない、一度に水揚げされる数量が多いため、需給バランスにより低価格での取引を強いられることがあげられる。</li> <li>・ 当行は、農林漁業の6次産業化支援強化に向けた取組みとして、当行を含む東北地銀4行、みずほグループ2社、及び農林漁業成長産業化支援機構との共同で「とうほくのみらい応援ファンド」を設立しており、本ファンドを利用できる事業体を探していた。</li> </ul> <p><b>【取組み内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マグロ産地市場は鮮魚での出荷のみであったため、地元漁師、産地市場仲買人ともに日々の大漁・不漁の需給バランスによる価格変動リスクにさらされてきたことから、A社ではマグロをストックする冷凍加工場の整備により同リスクを吸収することを検討。</li> <li>・ 事業費4億円の資金調達方法として、6次産業化補助事業にかかる国からの補助金、とうほくのみらい応援ファンドからの出資を検討した。</li> <li>・ 補助金とファンドを併用する条件として、6次産業化に関する国の認定を受ける必要があるため、当行では「6次産業化アドバイザー」及び「ボランティアプランナー」を派遣し、6次産業化に関する総合化事業計画の策定を支援。同時に、ファンド利用の条件となっている合併企業の設立に必要な共同出資者（パートナー企業）のマッチングを行った。</li> <li>・ 結果、6次産業化の認定を受けた新設法人を設立し、の補助金2億円、ファンドからの出資1億円を調達するに至った。</li> </ul> <p><b>【お取引先にとっての効果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中央市場と産地市場間の価格が安定することで、結果として浜値の安定につながり、地元漁業者全体で恩恵を受けることができる。</li> <li>・ 冷凍加工場の整備により、食の観光資源として深浦町及び青森県内での流通の促進、首都圏ベンダーへの直接販売、ネットや対面による消費者への直接販売、産地における未利用資源の有効活用、地元雇用の拡大が予定されている。</li> </ul>

## 現在の商流



## 今後の商流



冷凍加工場の稼働により、地元に戻元される付加価値が増加するとともに、雇用が創出される。

銀行名	みちのく銀行
タイトル	成長分野への取組み 再生可能エネルギー事業への取組み
取組み内容	<p><b>【動機（経緯）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元の複数の事業者が太陽光発電事業を目的にA社を共同設立。</li> <li>・ A社は地元自治体の青森県三戸郡南部町が保有する遊休資産の借り受けによる、大規模太陽光発電事業（メガソーラー）を計画。</li> <li>・ 青森県は風力発電の導入量で全国1位、導入基数で2位であり、風力発電が盛んな地域であることに加え、太平洋岸の日照時間や冷涼な気候が太陽光発電に適した気象であることから、再生可能エネルギーに関して非常に高いポテンシャルを有する地域と言える。</li> </ul> <p><b>【取組み内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上記事業に関する設備資金ニーズに対し、ABL（動産・売掛金担保融資）を活用した融資を実施。</li> <li>・ 当行では、平成24年7月からスタートした再生可能エネルギーの固定価格買取制度（FIT）開始後、再生可能エネルギー事業に対する取組強化を強化し、平成25年度は同事業（全て太陽光発電）に対し22件 / 35億円の融資を実行している。</li> </ul> <p><b>【お取引先にとっての効果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本件は地域の自然エネルギーを活用し、太陽光発電事業を実施するスキームであり、官民が中心となり、相互に連携して地域資源の活用を図る点が大きな特徴。</li> <li>・ 本設備稼働後は、環境学習・教育の場として施設見学の受入れを行うほか、保守・管理に関して障がい者の雇用など、自然エネルギーの活用を通じた地域貢献を目指している。</li> </ul> <p>[イメージ図]</p> <pre> graph TD     subgraph Solar_Business [ソーラー事業会社]         S1[・太陽光発電設備]         S2[・売電債権]     end     subgraph Power_Company [販売先（電力会社）]         P1[売電]     end     subgraph Bank [みちのく銀行]         B1[融資実行]     end     subgraph Eval_Company [動産評価会社]         E1[動産評価]     end     Solar_Business -- 売電 --&gt; Power_Company     Solar_Business -- 融資申込 --&gt; Bank     Solar_Business -- 譲渡担保差入（太陽光発電設備・売電債権） --&gt; Bank     Bank -- 融資実行 --&gt; Solar_Business     Solar_Business -- 売電実績等の定期報告 --&gt; Bank     Eval_Company -- 動産評価 --&gt; Bank   </pre>

銀行名	みちのく銀行
タイトル	PFI 事業に対する資金支援
取組み内容	<p><b>【動機（経緯）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青森市の小学校給食の調理施設は、建設から 30 年以上経過しているものもあり老朽化が顕著となっていた。</li> <li>・青森市では新たな調理施設の整備を行うべく、従来方式を含め整備方法を検討した結果、民間のノウハウの活用・コスト削減等を意図し、同市で初となる P F I による整備を決定。</li> <li>・当行では地域インフラの整備・維持管理に資する P F I 案件の組成を支援するため、本部担当者を配置し、事業主体である S P C に対し融資組成に関するアドバイス等を実施した。</li> </ul> <p><b>【お取引先等にとっての効果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当行がアレンジャー及びエージェントとして、プロジェクトファイナンスの組成を行い、S P C の資金調達を支援。</li> <li>・当行が P F I 事業のモニタリングを継続的に実施することで、青森市側では同事業に対するチェック機能の強化に繋がる。</li> <li>・平成 26 年 1 月には、内閣府・日本政策投資銀行との共催による地方公共団体向けの P F I セミナーを開催。今後も PFI の活用に関する啓蒙活動を通じ、地域インフラの整備、維持管理の支援を実施していく。</li> </ul> <div data-bbox="443 1263 1257 1839" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <pre> graph TD     A[青森市] &lt;--&gt; 事業契約  B[事業者(SPC)]     B &lt;--&gt; 業務委託  C[各業務受託企業 (設計、建設、維持管理等)]     D[みちのく銀行] -- 融資 --&gt; B   </pre> </div>

銀行名	みちのく銀行
タイトル	中国における現地調達サポート
取組み内容	<p><b>【動機（経緯）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取引先A社は地元大手の建設業者であり、メガソーラー事業への参入を検討していた。割安な中国製ソーラーパネルを調達するべく、一昨年頃より中国に出張し、現地企業との商談を重ねていた。</li> <li>・当行取引店がA社を訪問し、上記の取組みをヒアリングした。そこで、A社に対して当行上海駐在員事務所による中国現地での各種支援内容を提案した。</li> </ul> <p><b>【取組み内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・A社は中国に拠点が無く、また中国語に対応可能な社員が在籍していない。そのため、全て中国語でやりとりが行われる現地企業との商談に不安を感じていた。その不安を解消するため、当行が商談への同席を行った。</li> <li>・参考情報として、現地企業の概要、財務状況、生産設備、風評等を調査し、当行がA社に対して情報提供を行った。</li> <li>・A社よりメガソーラー事業の資金調達を相談され、当行がその設備資金を融資した。</li> <li>・現地企業との資金決済は外貨で行われることから、当行が決済用の外貨口座を開設した。</li> </ul> <p><b>【取組み後の成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・A社は他行メイン先であったが、一連の支援により他行銀行取引の一部を奪取することに成功した。</li> <li>・A社の取引先におけるメガソーラー案件を複数紹介してもらった。</li> </ul>

銀行名	みちのく銀行
タイトル	(株)東日本大震災事業者再生支援機構の債権買取を利用した事業再生支援
取組み内容	<p><b>【当該取組みを始めるに至った経緯・動機・打開が必要だった状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A社は昭和27年創業、八戸市を拠点として近年は不動産賃貸業を営み、全盛期には同市中心街に賃貸ビル2棟、駐車場、ボウリング場を有していた。</li> <li>・ しかしながら同市内の景況悪化に起因し、賃貸ビルのテナント業績不振、サブリース先の業績悪化で賃料収入が減少、資金繰りに困窮する事態となった。</li> <li>・ 再開発が進む中心市街地にある当社の有する立体駐車場は、活性化維持に必要不可欠であり再生が必要と判断。</li> </ul> <p><b>【当該取組みの具体的内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業の選択と集中を行うべく平成20年に非稼働資産である賃貸ビル1棟売却、平成22年には設備更新が滞っていたボウリング場及び隣地駐車場を売却し、事業資産はパチンコ店へ建物及び駐車場賃貸のみとした。</li> <li>・ 資産売却に伴い多額の売却損を計上し債務超過に至ったが、外部コンサルとともに事業計画を策定、創出キャッシュフローに則したりスケジュールを行い事業継続を図ってきた。</li> <li>・ しかし賃貸先であるパチンコ店と平成26年12月の契約更改で賃料減額が決定。現状の元利金の返済を継続した場合、資金繰り破綻が予想され抜本策の必要性に迫られた。</li> <li>・ 当行は外部コンサルとともに(株)東日本大震災事業者支援機構（以下震災支援機構）と事前相談を重ね、震災支援機構スキームが検討可能との判断を取り付ける。</li> <li>・ 震災支援機構の枠組みと利用し、当行実質的債権放棄及び機構買取にて大幅な利息軽減で、事業のゴーイングコンサーンを図る再生計画を導入した。</li> </ul> <p><b>【当該取組みの成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A社は被災地である八戸市に貢献出来る企業であり、当行支援の下、震災機構の利用を行い支払利息の軽減を行うことで、資金繰りの安定化が図られ事業継続に道筋を付けた。</li> <li>・ 当社事業継続により、中心街活性化を図る上で必要な駐車場を残すことが可能となり、牽いては集客力維持に繋がる。</li> </ul>

行名	みちのく銀行
タイトル	みちぎんキッズスクール 夏休み親子見学会
取組み内容	<p><b>【動機（経緯）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来を担う子どもたちに、普段訪れる機会の少ない銀行を実際に見学していただき、社会のなかで銀行が果たす役割やお金の大切さ・正しい使い方などを理解してもらうために実施した。</li> </ul> <p><b>【取組み内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生を対象とし、以下のカリキュラムで銀行業務の説明や銀行内の見学などを実施した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 銀行業務の説明</li> <li>- 紙幣の鑑定や札勘の体験</li> <li>- 銀行内の見学（地区センター・貸金庫室・役員室）</li> <li>- クイズ大会</li> </ul> </li> </ul> <p><b>【取組みの効果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紙幣鑑定の体験やクイズ大会により、楽しく銀行業務を学んでいただくことができ、参加者からも高評価をいただいている。</li> </ul>

銀行名	みちのく銀行
タイトル	全国高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園」青森大会の開催
取組み内容	<p><b>【動機（経緯）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・社会にでる前の高校生に、世の中がどのような金融経済の仕組みで動いているか理解して読み解き、「自分のライフデザイン」や「自分とお金の関わり方」を考えてもらうきっかけとするために実施した。</li></ul> <p><b>【取組みの内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・高校生に楽しみながら金融経済を学んでもらうためのクイズ大会で、青森県では初めての地方大会を当行が主催した。<ul style="list-style-type: none"><li>- 筆記クイズ</li><li>- 早押しクイズ</li><li>- ボードクイズ</li></ul></li></ul> <p><b>【取組みの効果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・今回、地方大会初開催であったが、11校24チームが参加し、アンケート結果でも高評価をいただいた。</li></ul>



銀行名	みちのく銀行
タイトル	青森市スポーツ会館のネーミングライツ取得
取組み内容	<p><b>【動機（経緯）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・青森市が募集した「青森市スポーツ会館のネーミングライツ・スポンサー」に応募し、同市が開催した「命名権者選定会議」における提案内容の審査の結果、「命名権交渉者」として選定された。</li></ul> <p><b>【取組みの内容・効果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ネーミングライツ・スポンサーとなることで、カーリング、柔道やサッカーなどのスポーツ競技を通じて、『将来を担う子どもたちの夢が叶い青森から世界に羽ばたいてほしい』との思いをこめ、当施設の愛称を「みちぎんドリームスタジアム」と決定した。</li><li>・今回、青森市と5年間のネーミングライツ・スポンサー契約をしており、ネーミングライツ料は青森市のスポーツ振興に関する事業費に充当される。この結果、当施設内にあるカーリング場の利用期間が2ヶ月間延長される予定。</li></ul>

銀行名	みちのく銀行
タイトル	「カーボン・オフセット」通帳・証書の導入
取組み内容	<p><b>【動機（経緯）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当行は環境保全活動の一環として、青森県が発行する『青森県県有林J - V E R クレジット』をクレジット（50 t）を購入しており、新通帳・証書の導入にあたり使用した。</li> </ul> <p><b>【取組み内容・効果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青森県県有林の「J - V E Rクレジット」を用いて、製造工程で排出された二酸化炭素をカーボン・オフセットし、環境面に配慮した通帳・証書を導入した。さらに、次のような特長もある。</li> </ul> <p>（通帳）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 「F S C 認証」の木材を使用した用紙で作成</li> <li>- 「植物油インク」の使用</li> <li>- 表紙に「紙クロス」を使用</li> <li>- 「カラーユニバーサルデザイン」の認証取得</li> <li>- 「ユニバーサルデザインフォント」の導入</li> </ul> <p>（証書）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 「ユニバーサルデザインフォント」の導入</li> </ul>